

2025年度

2025/4/4 令和7年度新入医局員歓迎会を行いました

千葉大学亥鼻キャンパス内にあるレストラン“MOKU -Farm pasta & The Chiburger-”にて、新入医局員の歓迎会を行いました。当教室では例年行っている行事であり、昨年に引き続きMOKUでの開催となりました。鵜澤教授の歓迎の挨拶から始まり、笠松准教授に乾杯の音頭を頂きました。伊豫田医局長の司会進行で、当教室の歴史や関連病院についての説明や留学体験記などの発表もありました。8名の新入医局員の先生からのユニークな自己紹介もあり、大変盛り上がりました。最後には、昨年同様に満開の夜桜の下で記念写真を撮影しました。今後、どのように成長していくのか、期待が高まる会となりました。



2025年度

鵜澤教授の総説がOral Science InternationalのTop Viewed Articleに選定されました

鵜澤教授の総説 “Collagen cross-linking in oral cancer” (Uzawa et al, Oral Sci Int, 2024) が、Oral Science InternationalのTop Viewed Articleとして選定されました。コラーゲン翻訳後修飾やクロスリンク生成における Lysyl hydroxylase 2 (LH2)やLysyl oxidase (LOX)の役割および口腔癌におけるコラーゲンクロスリンクの役割について、それらを標的とした臨床応用の可能性についてもレビュー形式でわかりやすく解説してあります。ぜひご一読下さい。doi: <https://doi.org/10.1002/osi2.1182>.



2025年度

第8回千葉大学医学部附属病院 歯科・顎・口腔外科 口腔外科指導医講演会が開催されました

2025/4/25（金）19:00～千葉大学医学部にて、千葉大学医学部歯科口腔外科同門会 入翠会会長の高原正明先生より「最近の医療トラブルのあれこれ」と題して、歯科医療の歴史や高原先生の様々な取り組みについてわかりやすく御講演頂きました。特に、若手の先生向けに歯科医師としての心構えや大切にしてほしいことなどを熱心に御指導頂きました。研修医の先生からの質疑応答も活発におこなわれ、大変貴重な時間となりました。高原正明先生、お忙しい中誠にありがとうございました。



2025年度

2025/5/11 令和7年度入翠会総会が開催されました

2024/5/11（日）千葉大学医学部歯科口腔外科の同門会（入翠会）の令和年度総会・懇親会が、京成ホテルミラマーレにて開催され、90名以上の先生方が御出席いただきました。高原正明会長、鵜澤一弘教授、丹沢秀樹名誉教授から御挨拶をいただき、今年度新入局の研修医の先生方も壇上に立って挨拶を行いました。総会においては、会員会則や連携会員プレート作成についてなど同門会の発展のために活発な意見交換がなされました。特別講演としては、千葉大学医学部附属病院 血液内科 科長の堺田恵美子先生に「造血器腫瘍の新たな治療法 最近の話題」と題して御講演頂きました。貴重なお話を伺うことができ大変勉強になりました。懇親会も盛況のうちに終了し、本年度も同門会員が一堂に会する機会に再び恵まれたことを嬉しく思います。御多忙中にもかかわらず御出席いただきました先生方につきましては、この場を借りて御礼申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。



* 令和7年度総会・懇親会の資料や写真などについては、入翠会ページに掲載しております。

第79回日本口腔科学会学術集会

2025/5/15～17に松本市キッセイ文化ホール エア・ウォーターアリーナ松本で開催された第79回日本口腔科学会学術集会に参加・発表しました。加瀬裕太郎先生が症例報告、西村勇輝先生が基礎研究の成果を発表しました。西村 勇輝先生が2025年若手優秀ポスター賞を受賞しました。鵜澤教授は、「臨床的研究 血液疾患」「症例報告 悪性腫瘍1」の2つのセッションの座長を務められました。気候にも恵まれ、学会中は多くの関連病院の先生方や他大学の先生方と交流やディスカッションも行うことができ大変有意義な時間となりました。

演題名：Fanconi 貧血患者に生じた下顎歯肉扁平上皮癌の1例（加瀬 裕太郎）

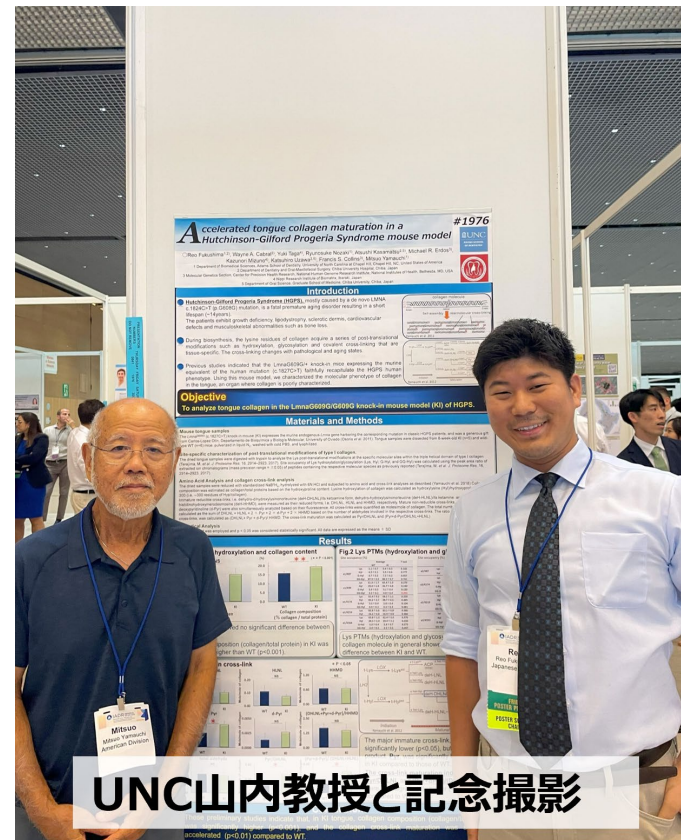
演題名：Collagen架橋調節因子Lysyl Hydroxylase 2を起点とした軸索誘導経路を介する新たな口腔癌進展メカニズムの解明
若手優秀ポスター賞（西村 勇輝）



103rd IADR General Session & Exhibition

2025/6/25～28にスペイン・バルセロナで開催された103rd IADR General Session & Exhibitionにて、福嶋玲雄先生が発表を行いました。当科から久しぶりの国際学会の参加でしたが、貴重な研究結果を丁寧に堂々と発表されていました。今後の国際的な活躍の期待が高まる発表となりました。

演題名: Accelerated tongue collagen maturation in a Hutchinson-Gilford Progeria Syndrome mouse model.
(Reo Fukushima et al.)



UNCI山内教授と記念撮影

2025年度

第9回千葉大学医学部附属病院 歯科・顎・口腔外科 口腔外科指導医講演会が開催されました

2025/6/27（金）19:00～千葉大学医学部にて、千葉大学医学部歯科口腔外科同門会 入翠会常任幹事（齋藤歯科医院 院長）の齋藤佳明先生より「私の歯口科在局時代の思い出」と題して、歯口科入局後から出向時の思い出、大学院時代の研究業績や開業に至るまでの経緯をわかりやすく御講演頂きました。若手医局員には、医局在籍時に大切にしてほしいことなどのメッセージも頂きました。また、入翠会会長の高原正明先生も参加下さりました。研修医の先生からの質疑応答も活発におこなわれ、大変貴重な時間となりました。齋藤佳明先生、お忙しい中誠にありがとうございました。



2025年度

富来 早織先生の論文がBB Reportsに掲載されました

富来 早織先生（大学院4年生）の論文'A novel small molecule that enhances lysyl hydroxylase 2 activity and matrix mineralization'が"Biochem Biophys Rep"（IF：2.2）に掲載されました。本研究では、I型コラーゲンの安定化に関与するLysyl hydroxylases2（LH2）を活性化させる低分子化合物を同定し、その効果を多角的に解析しました。将来的に、臨床応用の可能性も検討されるのでぜひご一読下さい。doi: 10.1016/j.bbrep.2025.102053.

富松 杏奈先生の論文がCase Reports in Dentistryに掲載されました

富松 杏奈先生（大学院2年生）の論文"Excision of a Solitary Neurofibroma in the Right Masseter Muscle via a High Perimandibular Approach: A Case Report and Review of the Literature"が"Case Reports in Dentistry"に掲載されました。本論文では、High Perimandibular Approachを用いて切除した咬筋の孤立性神経線維腫に関して、文献的考察を加えて報告しております。貴重な症例の報告となっておりますので、ぜひご一読下さい。doi: <https://doi.org/10.1155/crid/8838385>.



2025年度

第35回日本口腔内科学会・第38回日本口腔診断学会 合同学術大会

2025/9/5～7に仙台国際センター展示棟で開催された第35回日本口腔内科学会に参加・発表しました。榎戸 真子先生が症例報告を発表しました。気候にも恵まれ、学会中は他大学の先生方と有意義な交流や研鑽を積むことができ大変有意義な時間となりました。

演題名:「遺伝性血管性浮腫発作に備えて全身管理下に抜歯術を行った2例」(榎戸 真子)



2025年度

第59回日本口腔科学会関東地方部会

2025/10/25に東京慈恵会医科大学2号館講堂で開催された第59回日本口腔科学会関東地方部会に参加・発表しました。大越卓先生が、薬剤関連顎骨壊死における当科の臨床的検討を発表し、初めての学会発表ながらも落ち着いた口調で分かりやすく発表されました。質疑応答でも冷静かつ的確に対応し、新人賞を受賞されました。また、笠松准教授は一般口演セッションにおいて座長を務められ、活発な議論をリードされました。学会全体を通して、他大学の先生方による多様な症例報告などから多くの刺激を受け、非常に有意義な時間となりました。

演題名:「当科で治療を行った薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）176例の臨床的検討」 新人賞（大越 卓）



2025年度

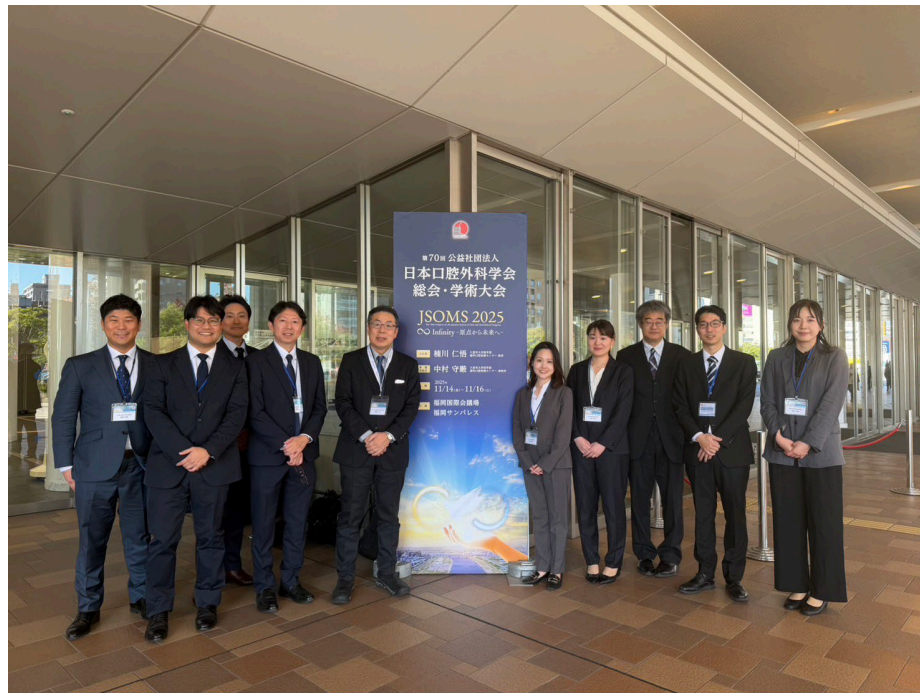
第70回日本口腔外科学会総会・学術大会

2025/11/14~16に福岡市福岡国際会議場・福岡サンパレスで開催された第70回日本口腔外科学会総会・学術大会に参加・発表しました。川崎晃平先生・白藤由惟先生が症例報告、津川野の花先生が基礎研究の成果を発表しました。鵜澤教授は、「症例報告 再生医療3」のセッションの座長を務められました。気候にも恵まれ、学会中は共同研究をしているUNC山内教授や関連病院の先生方、他大学の先生方と深い交流やディスカッションを行うことができました。

演題名:「頬粘膜に発生した成因の異なる唾液腺導管嚢胞の2例」(川崎 晃平)

演題名:「High Perimandibular Approachを用いて治療した咬筋外傷性化骨性筋炎の1例」(白藤 由惟)

演題名:「Cisplatinと協調し抗癌作用を増強する新規化合物の同定:LH2を標的とした日米共同研究」(津川 野の花)



2025年度

第29回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会

2025/11/29～30に島根県松江テルサで開催された第29回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会に参加・発表しました。齋藤智昭先生が下記の症例報告を発表し、落ち着いた口調で丁寧に発表されていました。質疑応答においても、適切に対応しておりました。気候にも恵まれて、様々な症例報告などから有意義な研鑽を積むことができました。

演題名:「上顎洞底挙上術後の口腔上顎洞瘻の一例」(齋藤 智昭)

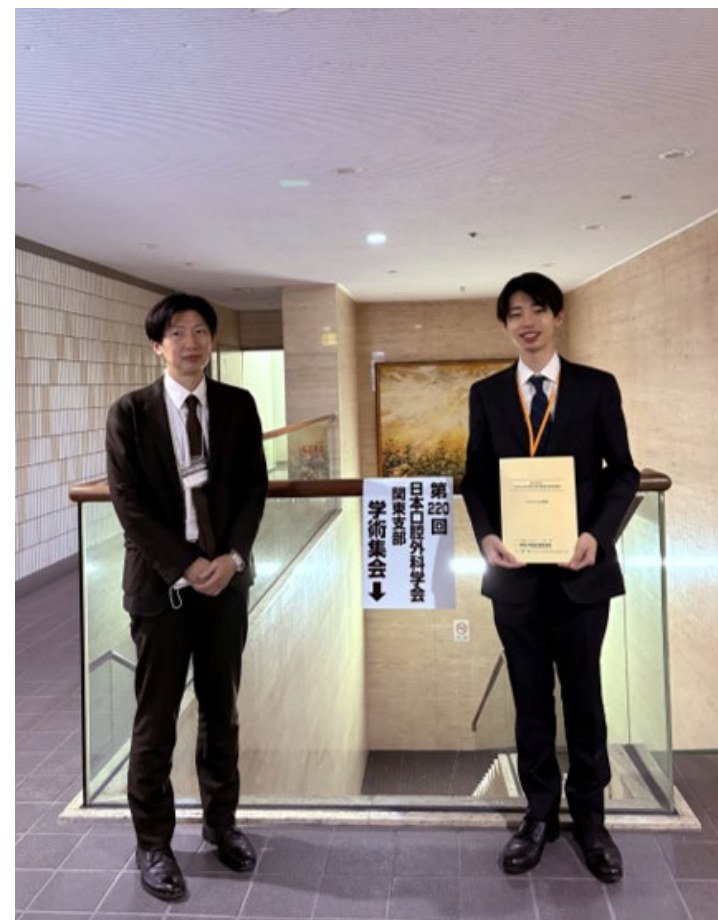


2025年度

第220回日本口腔外科学会関東支部学術集会

2025/12/6に神奈川県歯科医師会館で開催された第220回（公社）日本口腔外科学会関東支部学術集会に参加・発表しました。大塚啓史先生が下記の症例報告を発表しました。様々な症例報告から新しい知見を得ることができ、大変有意義な時間となりました。

演題名:「下顎半側切除を要したエナメル上皮腫の2例」（大塚 啓史）



2025年度

2025/12/13 第1542回千葉医学会・第46回歯科口腔外科例会
千葉大学医学部附属病院歯科・顎・口腔外科忘年会

2025/12/13（土）千葉大学大学院薬学研究院・薬学部120周年記念講堂にて、第1542回千葉医学会・第46回歯科口腔外科例会が開催されました。昨年に続き対面形式の例会が開催され、関連大学・病院の多くの先生方が発表されました。座長や指導医の先生だけでなく、研修医を含めた多くの先生方が積極的に発言され、活発な質疑応答がおこなわれました。また、今井 裕先生（（一社）日本歯科専門医機構理事長）より「（一社）日本歯科専門医機構とは何か？— 新たなる歯科専門医の制度設計に挑む —」と題した特別講演をして頂きました。現在の歯科医療の問題点、日本歯科専門医機構の取り組みや歯科専門医制度などについて御講演頂き、大変貴重なお話を伺うことができました。多くの先生方に御参加をいただき、盛会のうちに終了となりました。その後、京成ホテルミラマーレに場所を移動して千葉大学医学部附属病院歯科・顎・口腔外科忘年会が開催されました。伊豫田医局長の司会進行で、防衛医科大学校歯科口腔外科教授 横江 秀隆教授に乾杯の音頭を頂きました。忘年会も大盛況のうちに終了しました。

* 例会のプログラムや写真などは、入翠会ページに掲載しております。

第46回歯科口腔外科例会

第1542回 千葉医学会

特別講演

（一社）日本歯科専門医機構とは何か？
— 新たなる歯科専門医の制度設計に挑む —

今井 裕先生



（一社）日本歯科専門医機構理事長

（一社）日本歯学系学会協議会理事長

獨協医科大学名誉教授

NPO 日本・アジア健康科学支援機構 理事長

モンゴル国立医療科学大学客員教授

日時：2025年12月13日（土）
12:30～13:30

場所：千葉大学大学院薬学研究院
薬学部 120周年記念講堂

主催：千葉大学大学院医学研究院 口腔科学



2025年度

2025/12/22 クリスマス会

2025/12/22（月）数日早いですが、千葉大学大学院口腔科学のカンファレンスルームにて、研修医の先生、大学院生、文部教官、秘書さん、歯科衛生士さんも集まってクリスマス会を開催しました。秘書さんが企画・準備をしてくださり、記念に全員で集合写真を撮影しました。クリスマスソングは歌いませんでしたが、1年間の仕事や業務を労い、楽しいクリスマス会になりました！！



2025年度

謹賀新年



2025年度

2026/1/16 鏡開き

2026/1/16（金）千葉大学大学院口腔科学のカンファレンスルームにて、今年一年の無病息災とさらなる発展を祈念し鏡開きを開催いたしました。新しい一年が、私たちの取り組みに新たな成果をもたらし、笑顔と成長に満ちたものとなりますようお願いしております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

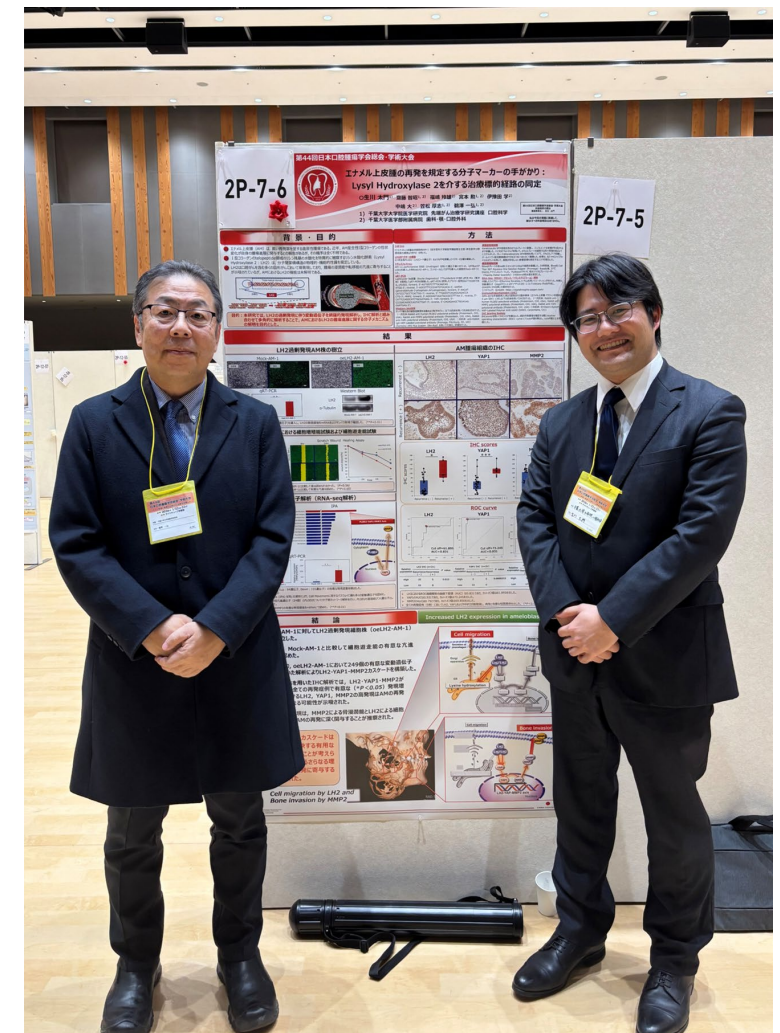


2025年度

第44回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会

2026/1/22～23にライトキューブ宇都宮で開催された第44回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会に参加・発表しました。生川 太門先生が基礎研究の成果を発表し、優秀ポスター賞を受賞しました。鵜澤教授は、一般演題（口演）「周術期」セッションの座長を務められました。本研究では、エナメル上皮腫におけるLH2の役割を明らかにすることを目的とし、基礎実験・臨床症例の両面から検討を行いました。学会当日は、多くの先生方から建設的なご意見やご助言をいただき、研究の今後の方向性を再確認する貴重な機会となりました。

演題名:「エナメル上皮腫の再発を規定する分子マーカーの手がかり：リシン水酸化酵素2を介する治療標的経路の同定」優秀ポスター賞（生川 太門）



2025年度

令和7年度クリカルアナトミーラボ（CAL）口腔外科実習が行われました

2026/2/28（土）千葉大学医学部1階CAL実習室にてご検体を用いた「口腔顎顔面領域疾患に対する手術手技実習」として、献体の精神に深く感謝をして実習が行われました。

日本口腔外科学会雑誌に当科の口腔がんセツキシマブ治療抵抗性研究の総説が掲載されました

日本口腔外科学会雑誌2026年第72巻2号に、当科における口腔がんセツキシマブ治療抵抗性の研究（耐性や副作用克服メカニズム）について総説形式で掲載しております。「口腔癌におけるセツキシマブ治療抵抗性克服を目指した新規標的制御療法の開発」（著：笠松 厚志・齋藤 智昭・鵜澤 一弘）と題して、当科における研究内容の一部を分かりやすく掲載しておりますので、ぜひご一読下さい。<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjoms/-char/ja/>

伊豫田 学先生の論文がThe Egyptian Journal of Otolaryngologyに掲載されました

伊豫田 学先生（講師）の論文“Oral squamous cell carcinoma of the tongue that developed 25 years after hematopoietic stem cell transplantation: a case report”が、“The Egyptian Journal of Otolaryngology”に掲載されました。本論文では、急性骨髄性白血病にて骨髄移植を施行され、移植後25年経過して舌癌を発症した症例に関して、文献的考察を加えて報告しております。貴重な症例の報告となっておりますので、ぜひご一読ください。doi: <https://doi.org/10.1186/s43163-026-01048-w>



2025年度

38th Annual Congress of the Taiwanese Association of Oral and Maxillofacial Surgery

2026/3/14～15に台湾・高雄で開催された38th Annual Congress of the Taiwanese Association of Oral and Maxillofacial Surgeryにて、生川太門先生、津川野の花先生、西村勇輝先生がポスター発表を行いました。初めての国際学会の参加で緊張しておりましたが、これまでの研究結果を丁寧に堂々と発表されました。今後の国際的な活躍の期待が高まる発表となりました。

演題名: The Role of Lysyl Hydroxylase 2 in the progression of Ameloblastoma (Tamon Narukawa et al.)

演題名: A Novel Lysyl Hydroxylase 2 Inhibitor Enhances Cisplatin Sensitivity Oral Cancer Cells (Nonoka Tsugawa et al.)

演題名: LH2 Activates an EPHA7-AKT-VEGF Signaling Pathway that Promotes OSCC Progression (Yuki Nishimura et al.)



2025年度

令和7年度医科研修医・歯科研修医・薬剤師レジデント修了式が開催されました

2026年3月18日（水）千葉大学医学部附属病院ガーネットホールにて令和7年度医科研修医・歯科研修医・薬剤師レジデント修了式が開催されました。当科からは、研修医6名が2年間の研修を終了し大鳥病院長より修了証書が渡されました。その後、薬剤部部長の石井教授や当科科長の鵜澤教授、総合医療教育研修センター長の伊藤教授から祝辞を頂きました。研修修了おめでとうございます。



2025年度

令和7年度千葉大学大学院修了式・学位記授与式が行われました

2026年3月23日に千葉大学大学院の学位授与式・修了式が行われ、当講座からは富来 早織先生が博士課程を修了し、学位（医学）が授与されました。

富来 早織先生 学位論文: Loss of lysyl hydroxylase 2 activates CRP-mediated cancer invasion in the bone-microenvironment (Lysyl Hydroxylase 2 欠損が骨微小環境において誘導するCRP依存的がん浸潤機構)



2025年度

加瀬 裕太郎先生の論文が日本口腔外科学会雑誌に掲載されました

加瀬 裕太郎先生の論文「光線過敏症を伴う赤芽球性プロトポルフィリン症患者に対して下顎智歯抜歯術を施行した1例」が、日本口腔外科学会雑誌2026年第72巻3号に掲載されました。本論文では、赤芽球性プロトポルフィリン症患者に対して光線過敏症対策を行い、問題なく抜歯を完遂し得た1例に関して、文献的考察を加えて報告しております。貴重な症例の報告となっておりますので、ぜひご一読ください。

